

ルーマニアに徳島大学の技術を

徳島県県民環境部県民環境政策課主幹
独立行政法人 国際協力機構 ルーマニア国長期派遣専門家

大垣 光治

1947年2月3日生

1969年3月徳島大学工学部化学工学科卒業



ルーマニアの人と踊る阿波踊り



地元大学や行政機関との合同会議



剣道と日本語を教えに来ている日本人女性と

ドイツからヨーロッパ8カ国2800kmを流れるドナウ川は、最後にルーマニアを通過して、黒海に流れ込んでいます。ヨハン・ストラウスの「美しい青きドナウ」で、ロマンチックなイメージを持っている人も沢山いるでしょう。しかし、終着駅であるルーマニアのドナウ川は、富栄養化して透明度の悪い褐色の水になってしまっており、詩のイメージとはかけ離れてしまっています。それでも河口部は、ヨーロッパ最後の秘境と呼ばれて、世界遺産にも登録されているドナウデルタです。そこは広大な湿原で、ペリカン等たくさんの野鳥を見ることができます。

現在、私は徳島県庁に籍を置きながら、JICAからルーマニアに「環境アドバイザー」として派遣されています。平成16年3月までの2年間ブ

カレストで、環境セミナーを開いたり技術指導を行いながら、日本の環境管理技術を知ってもらうための活動をしています。

ルーマニアでは2007年でのEU加盟を最優先の課題として取り組んでいます。その中でも環境は取り組みが遅れている分野の一つです。

1992年の地球サミットで確認されたキーワードに「共通だが差異ある責任」というのがあります。地球環境保全については世界中の国に共通の責任があるが、その大半は先進国が背負うべきだというものです。昨年度開いた環境セミナーでの徳島大学のご指導（工学部本仲先生）が大変好評で、今年になってから、再度フォローアップセミナーをお願いしました。その間では、大気汚染モニタリングについての技術交流（工学部中林教授、本仲教授、金崎助教授、藪谷助手ら7名の先生達と）も始まりました。

発展途上国の多くの人達が、今徳島大学に蓄積されている多様な技術を待ち望んでいます。現地の人と一緒にあって、より良い地球環境を次の世代へ引き継ぐための力を是非貸して下さい。

ところで、ルーマニアでは少しずつですが「阿波踊り」の輪が広がっています。一緒にもっと、もっと輪を広げませんか？